

Wish

世界の子どものために

vol.72

2024年1月号



写真提供：早川千晶

早川さんの話を聞いた日本の中高生から、ケニア・キベラスラムにあるマゴソスクールの高校受験生に励ましのサクセスカードが届いた。

CONTENTS

- 上智大学 110 周年記念企画ユニセフセミナー
- 2-3 「教育」から考える国際協力と支援の道
～若者たちとこれからの国際教育～
- 4-5 AUTUMN EVENTS 秋のイベントに参加

- 6-7 活動ファイル
2023年8月～12月
- 8 お知らせ

上智大学 110周年記念企画 ユニセフセミナー

「教育」から考える 国際協力と支援の道

若者たちとこれからの国際教育

講師

須藤 玲さん

六甲中学校・高等学校卒業。上智大学総合人間科学部教育学科卒業後、同大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻博士課程前期(修士)課程修了。現在東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻博士課程に所属。日本学術振興会特別研究員(DCI)。Sophia Global Education and Discovery Co.,LTD., 高校生向けオンライン探究学習プログラム「せかい探究部」コーチ、独立行政法人国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所 非常勤研究助手としても活躍中。

東ティモールの教育研究から考える国際支援

須藤さんは現在、東京大学大学院教育学研究科博士課程に所属し、東ティモールの教授言語(学校で教える時に使う言語)問題を中心に研究しています。途上国の教育についての研究者を志したきっかけは、高校在学中に学校の社会奉仕活動でインドを訪れ絶対的な貧困を目の当たりにしたことでした。

東ティモールはアジアで最も新しく、約130万人の人口の約40%が14歳以下の国です。歴史的背景からポルトガル語やインドネシア語など世代によって使う言語が違う上に、20以上の地域言語が混在しており、全く通じないこともあります。そのため学校教育の現場では、教授言語(公用語のポルトガル語・テトゥン語)と生活言語の違いから理解のできる授業にならず、教育の質が低下する要因になっています。同様のことが、私たちの足元の日本においても在日外国人の子どもの母語教育などの構造的な問題として存在し

上智大学大阪サテライトキャンパスと兵庫県ユニセフ協会は、教育活動を通じた国際協力と支援の在り方について実際に活動をされている方々に話をいただき、若者たちにも理解を深めてもらう共同プログラムを開催しました。以前より兵庫県ユニセフ協会とご縁のある早川千晶さんの講演を中心に、セミナーの内容を紹介します。

プログラム

- 挨拶
永井敦子さん(上智大学教授・学生総務担当副学長)
- 講演 アフリカのスラムに学校を作る
～子どもたちの笑顔、命の輝き～
講師 早川千晶さん
- 活動報告 六甲学院中学校・高等学校
社会奉仕活動報告
発表者 六甲学院中学校・高等学校社会奉仕委員会
- 講演 東ティモールの教育研究から考える
国際支援
講師 須藤玲さん

Data イベントデータ

日時	2023年10月9日(月・祝)
会場	上智大学大阪サテライトキャンパス(大阪市北区)
参加者	40人
主催	上智大学大阪サテライトキャンパス、兵庫県ユニセフ協会
後援	大阪ユニセフ協会

ていることを知っておく必要があります。国際(教育)協力は途上国に対して「何とかしてあげる」という思いを押し付けてしまいがちですが、相手のフィールドに立ち入っていくことを冷静に自覚し、知見を出し合って学び合い共に立つ、という考え方に大きく変えていかなければなりません。

研究者という自由な立場から社会の中の教育の役割を考え、研究成果を通して理論と実践をして研究者同士をつなぎ、次世代の教育へつなげていくのが研究者としての自分の役割だと須藤さんは考えています。

「インド募金」は毎月1回全生徒から200円(任意)で集めた募金をインド・ダンバードにあるハンセン病患者の子どもたちの養護施設「ミアン社会福祉センター」に送っています。また生徒のインド訪問も定期的に行っています。授業時間内にインド募金について学ぶ時間が設けられ、どの学年にもいる社会奉仕委員会の委員が生徒たちの理解を促す活動をしています。

「全校で取り組むインド募金などの社会奉仕活動の意義は、自分たちのいる場所とは違う世界のことを知り、自分なりの考えを持って他者のために行動するきっかけになっていること」と発表者の高校生は話しました。

六甲学院中学校・高等学校 社会奉仕活動報告

上智大学と同じ学校法人である六甲学院中学校・高等学校社会奉仕委員会の高校生2人が、日頃の活動の中から「NPO花たばゴミ出しボランティア」と「インド募金」についての報告をしました。

「ゴミ出しボランティア」は地元の高齢者を援助するもので、お互いの顔がわか



早川さん
出演！

森のフェスタ 2023 ライブイベント 「アフリカの鼓動」



今年も早川千晶さんと大西匡哉さんのライブイベントが、小さな子ども連れの家族や学生が行き交う尼崎の森大芝生広場で開催されました。

トラックステージでは大西さんは伝統太鼓「ンゴマ」をたたき歌い、早川さんは歌い踊り、困難な状況でも生きることを決めてあきらめず、助け合いながら生き抜くスラムの仲間たちのいのちの物語を語りました。

参加者は、クイズに答えながらアフリカについて学び、太鼓の響きや歌に合わせて手拍子し、掛け声をかけ、歌い踊り、ステージと一体となりました。「子どもは洋服のように売ったり買ったりできないよ」「つらい事も助け合えば乗り越えていけるよ」などの力強く心温まる歌と太鼓の響きはアフリカの鼓動となり、参加者の心を震わせました。

会場ではマゴソスクールで働く人たちが作ったグッズの販売も行われました。



Data イベントデータ

出演 早川千晶さん (マゴソスクール主宰)
大西匡哉さん (ドゥルマ民族伝統音楽正式継承者)

日時 2023年10月8日(日)

会場 兵庫県立尼崎の森中央緑地大芝生広場

主催 兵庫県

主管 尼崎の森中央緑地パークセンター

共催 兵庫県ユニセフ協会

協力 フジトランスポート株式会社

※(公財)兵庫県国際交流協会民間国際交流事業助成制度による助成事業として開催。

講師

早川 千晶さん

ケニア在住 35 年。ナイロビ最大の貧困地区キベラスラムで孤児や困窮児童のための学校「マゴソスクール」、モンバサ近郊のミリティーニ村で「ジュンバ・ラ・ワト」(子どもの家)、高校生・大学生のための奨学金グループ「マゴソOBORGクラブ」、障害児の特別学級、スラムの若者たちのエンパワーメント「MCC-Magoso Community Center」などを設立運営。

マサイ民族とドゥルマ民族の村でホームステイ&伝統文化体験のエコツアー、キベラスラムのスタディツアーなども手がけている。著書に「アフリカ日和」など。



アフリカのスラムに学校を作る 子どもたちの笑顔、命の輝き

早川さんは中高生のころから、世界の不平等や自分の生き方に疑問を持っていました。東京外国語大学に入った後、船とヒッチハイクで世界を旅しました。納得いくまでと大学を中退して旅を続け、歴史の中で生じた様々なゆがみのあるアフリカの社会で命を輝かせて助け合っている人々に出会いました。そしてケニアでの生活を始め、旅行会社で就職し結婚し、現在は通訳やテレビ番組制作などの仕事をしながらケニア社会の一員として困難な状況にある人々の支援活動を行っています。

早川さんが主宰するマゴソスクールがあるキベラスラムは、ナイロビの中心から6キロメートルほどのところにある東アフリカ最大のスラム街です。電気も水道もなく、50世帯にトイレが一つあるかどうかの暮らします。武装集団や自然災害で故郷を追われた人たちが、ナイロビを目指して何百キロも歩いてきます。ここは貧しい街ですが、希望を持っています。

てくる街でもあります。

スラムの大人たちは子どもたちに勉強させたいと思っていますが、生活は過酷です。子どもたちの中には、暴力をふるったり物乞いをしたりシンナーを吸う子どももいます。寺子屋を作った親しい友人やスラムの人たちの思いから学校を作りました。ここに逃げたら食べ物がありません、お母さんたちにとつての駆け込み寺にもなっています。授業料も食費も無料です。子どもたちはここで学んで知識や技術を身につけてみんなが幸せに暮らせる街にしていきたいと思っています。子どもたちが語る夢は学ぶ意欲を生み出しています。

また、卒業生の進学を助けるための「マゴソスクールOBORGクラブ」を作りました。進学した彼らは自分たちで未来を切り開いていくために様々な新しい取り組みをしています。マゴソスクールの屋根にはソーラーパネルがあり蓄電もできます。コンピューター学校も、フードバンクのアプリも作りました。教育は希望を生み出す社会の光です。そして長年の努力でマゴソスクールが政

府に認可された私立学校になりました。

早川さんは、25年ほど前から子どもから与えてもらっている希望だったり輝きだったり、地球の未来を考えていく上で大切なメッセージをエコツアーやポレレキャラバンを通して日本に届けています。

立命館宇治中学校・高等学校の生徒さんたちは、奨学金をもらいながら高校への進学を希望する受験生に「僕たちも頑張るからみんなも頑張ってください」というサクセスカードを書いて送ってくれました。遠い世界の誰かが自分の為に想いを寄せて一緒に頑張ろうって祈ってくれていることが励みになっています。



秋はイベント盛りだくさん。

コロナ禍もあけ、多くの人とふれあい、
ユニセフの活動を紹介しました。

AUTUMN EVENTS

秋のイベントに参加

姫路市医師会 看護専門学校文化祭

10月21日(土) 姫路市医師会看護専門学校

高校卒業後や社会人を経験後に入学し、様々な年齢層の学生が学ぶ看護専門学校。この日は近隣の人たちもたくさん訪れました。

ユニセフブースでは学生さんが主体になってユニセフの活動を紹介。来訪者は上腕メジャーの赤ラインが示す細さに驚き、ネパールの子どもたちが運ぶ水がめの重さを体感。報道を通してしか知らない世界の現状を知っていただくいい機会になりました。

ユニセフの活動の中で一番関心のあることは?の問いかけに「そりゃあ、医療でしょう!」と。さすが看護専門学校の学生さんたちでした。



紙芝居
はじまり
はじまり~



うみかぜ音楽祭× 健チャレ MEETS

10月1日(日)

兵庫県立舞子公園特設会場

秋風が少し感じられる10月最初の日曜日、明石海峡大橋を目の前に望む絶好のロケーション、舞子公園で開催された「うみかぜ音楽祭×健チャレ MEETS」にブース出展。実際に水を入れた水がめを持ち上げて重さを当てるクイズや、魚つりゲームなどを通じてユニセフの活動をPRしました。当協会キャラクターのくーまんも大活躍!ステージから流れてくる様々なジャンルの音楽をバックに、他団体との交流もたくさん持て充実した一日でした。



こんな
支援物資が
あります

地域つながる フォーラム

9月8日(金)

コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)

「つながり」から持続可能な社会づくりを考えるコープこうべのイベントにブースを出展しました。ユニセフの活動とSDGsの17の目標との関わりを紹介するパネルや、ワクチン運搬用の保冷ボックス、子どもの栄養不良の可能性を調べる上腕計測メジャー、地雷のレプリカなどを展示しました。活動に関連するいろいろなものを実際に手に取って見てもらい、お話をすることでより身近にユニセフのことを知っていただく機会となりました。



子どもたちのために
よろしくお願
いします

住吉にて

第45回 ユニセフハンド・イン・ハンド 街頭募金活動

11月10日(金)/17日(金) 住吉
12月23日(土) 姫路、明石、元町、住吉、西宮北口

ユニセフハンド・イン・ハンド募金の今年のテーマは「すべての子どもに予防接種を〜今、子どもたちの命を守る行動を!」。紛争や飢餓など最も厳しい状況にある子どもたちが予防接種を受けられずに亡くなっています。予防できる病気から幼い命を守るため、トライやる・ウィークの中学生や、大学生も一緒に支援を呼びかけました。ご協力ありがとうございました。

地球のステージ

10月9日(月・祝) 豊中市立刀根山小学校
11月29日(水) 神戸市立向洋中学校



豊中市立刀根山小学校にて

NPO 法人地球のステージ代表理事で医師の桑山紀彦さんの語りと音楽と映像にのせて、困難な環境の中で傷つき苦しみながらも希望を失わずに生き抜く人たちの姿にふれました。刀根山小学校では、トルコ・シリア大地震の被災地で暮らすクルドの人たちやロシアのウクライナ侵攻から隣国に逃れて暮らす子どもたちを紹介。向洋中学校では、激しい戦闘のまっただ中のパレスチナ・ガザから、厳しい状況の中、現地事務所スタッフのモハマッドさんが送ってきたレポートと共に、現地の様子が語られました。また、刀根山小学校では豊中青少年少女合唱団のステージが、向洋中学校では1年生の合唱や生徒たちとのパネルディスカッションも行われました。会場内のユニセフブースではアフリカの小物や募金箱を置き活動紹介をしました。

ケニアの
手作品
いかが
ですか?



ユニセフ写真パネル展 & ギャラリートーク

11月15日(水)～22日(水) コープテイズ豊岡

アジアプレス所属の映像ジャーナリスト玉本英子さんのウクライナでの最新取材写真のパネル展が豊岡で開催されました。戦争の悲惨さとそれでも生きていくという人々の写真に、買い物に訪れた人々は足を止めました。最終日にはギャラリートークも行われ、玉本さんから1枚1枚の写真の背景を聞き、改めてウクライナの厳しい状況を知りました。また、同じ日に玉本さんは兵庫県立豊岡総合高等学校でも3年生を前に映像を映しながら話されました。生徒たちは現地に赴き取材する玉本さんを通してウクライナの現状を知りました。この講演会は世界に目を向け、自分たちにできることは何かと考える機会になりました。

一度始めた
戦争は簡単
には止められ
ません





1 トライやる・ウィーク

9月11日(月)～15日(金)

本山中学校 小野田悠莉さん、島口琉生さん、中村甘露さん、
水野琉汰朗さん

11月6日(月)～10日(金)

上野中学校 藤井晴希さん、吉川俊さん
歌敷山中学校 川元悠稀さん、行本葉さん
義務教育学校港島学園 北島創太さん、濱谷萌叶さん

11月13日(月)～17日(金)

西代中学校 勇魁里さん、植田勇輝さん

2023年秋、神戸市立中学校の2年生12人がトライやる・ウィークで兵庫県ユニセフ協会に来ました。

「ユニセフって名前は知ってるけど」「子どもたちのために何かできることは」など様々な思いを持ってやって来た生徒たち。ボランティアから活動や世界の話聞き、最終日には買い物に来られた人たちに大きな声で募金を呼びかけました。自分たちの当たり前が世界の当たり前ではないなど多くのことを学んだ5日間でした。



2 ユニセフ写真パネル展 アフリカの子どもたち

期間 2023年10月2日(月)～13日(金)

会場 コープこうべ生活文化センター1階ロビー

協力 大阪ユニセフ協会



アフリカでは気候変動による干ばつや洪水、度重なる紛争などを背景とする、大規模な食糧危機が発生し、何百万人の子どもたちが栄養不良や感染症などで命の危機にさらされています。今回はルワンダ・コンゴ・ケニアなどの子どもたちの写真パネルとユニセフの活動を紹介するポスターなどを展示しました。困難な暮らしの中にあっても笑顔を見せる子どもたちの姿が印象的でした。

Activities File

活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2023年8月～12月

活 動 一 覧

Activities List

学習会一覧

月日	訪問先	対象	人数
9月8日	尼崎市立武庫の里小学校	6年生	92
9月12日	西宮北口コープ委員会	大人	8
9月28日	コープ魚住子育てひろば	幼・小学生	22
9月29日	三田市いきいき高齢者支援課	大人	11
10月11日	兵庫県立国際高等学校	2・3年生、大人	25
10月19日	兵庫県立西宮今津高等学校	1年生	16
10月19日	神戸市立花谷小学校	5年生	55
12月1日	西宮市立今津小学校	6年生	78
12月12日	堺市立神谷小学校	6年生	37

地域活動一覧 (S)…コープこうべ生活文化センター開催 *ブース出展

月日	イベント名	
9月8日	地域つながるフォーラム(S)	*
10月1日	うみかぜ音楽祭×健チャレMEETS(神戸市垂水区)	*
10月2日-13日	ユニセフ写真パネル展「アフリカの子どもたち」(S)	
10月8日	森のフェスタ2023 ライブイベント「アフリカの鼓動」(尼崎市)	*
10月9日	ユニセフセミナー「教育から考える国際協力と支援の道～若者たちとこれからの国際教育～」(大阪市北区)	
10月9日	地球のステージ(豊中市)	*
10月21日	姫路市医師会看護専門学校文化祭	*
10月22日	コープ桜が丘組合員まつり&タウンセンタージョイフルまつり(神戸市西区)	*
10月26日	コープ魚住子育てひろば	
11月4日	2023国際理解講座③「いま、日本が問われていること」(S)	
11月15日-22日	ユニセフ写真パネル展「ウクライナの危機と子どもたち」(豊岡市)	
11月22日	玉本英子さん平和講演会(豊岡市)	
11月22日	玉本英子さんギャラリートーク(豊岡市)	
11月25日	2023国際理解講座④「戦火の中の女性と子どもたち」(神戸市中央区)	
11月29日	地球のステージ(神戸市東灘区)	*
12月23日	第45回ユニセフハンド・イン・ハンド 街頭募金活動(姫路、明石、元町、住吉、西宮北口)	

トライやる受入 神戸市立5中学校2年生12人

インターン生受入 8/1～9/8のうち5日間 大手前大学3年生2人

募金一覧

2023年7月～10月

学校・団体名

尼崎市立武庫北小学校、コープこうべ、阪神友愛食品(株)たけのこ会、コープ魚住子育てひろば、神戸市立六甲アイランド高校、姫路市医師会看護専門学校文化祭、コープ桜が丘組合員まつり&ジョイフルタウンまつり
ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

3

平和講演会
ひやくじゅういち
百 拾 壹 年 の 時 を 超 え て
～日露戦争時の写真に見る日露友好の記憶～

講 師 立木さとみさん（「立木写真館 1883」代表）
日 時 2023年8月19日（土）
会 場 兵庫県民会館（神戸市中央区）
参加者 31人
主 催 コープこうべ、兵庫県ユニセフ協会

2016年にロシア兵のひ孫アリョーナさんから写真の台紙にあったネームを手掛かりに数枚の写真が立木写真館に送られてきました。その中の日露戦争時に香川県善通寺で撮影されたロシア兵俘虜たちの集合写真からは当時の俘虜たちが想像以上に人道的に扱われて、近隣の住民や日本兵と交流していたことも分かり、兵士たちの和やかな雰囲気も伝わってきました。また、日露兵士のツーショット



写真を調べていくと、アリョーナさんの曾祖父と戦場で助け合った日本兵が奇遇にも日本に戻る船上で再会し病衣姿でおさまっている写真と分かりました。

立木さんは、「写真にはチカラがあります。文字では表しきれない圧倒的な情報量があり、時空を超えて過去の記憶をよみがえらせ、人との縁をつなぎます。国と国は戦争をしても市民が互いに個人的に憎しみを持っているわけではありません」と話しました。

4

2023 国際理解講座③④

※公益信託兵庫婦人会館ユネスコ基金からの助成を受けて開催。

③ **いま、日本が問われていること**
～アフリカから見えてくる日本と世界～

講 師 大津司郎さん（アフリカジャーナリスト）写真左
甲斐信好さん（拓殖大学副学長・国際学部教授）
日 時 2023年11月4日（土）
会 場 コープこうべ生活文化センター
参加者 42人

アフリカと関わりの深いお二人の視点から話を聞きました。

甲斐 私の携わっている国際政治学は戦争をやめる学問です。紛争、難民、感染症、貧困、気象変動など世界の問題が凝縮されたアフリカは国際政治の最前線です。2005年から大津さんのコーディネートで学生を連れてアフリカスタディツアーをしています、いつも感じるのは日本が問われていることです。それは、国際政治の最前線を知ること。自分の考えを伝えるコミュニケーション力が

不足していること。アフリカに日本の存在感がないこと。そして日本に希望を持ってない若者が多いことです。

大津 取材から見えてくるのは、激動する世界に日本がないこと。今世界は生き残りをかけて情報を得ることにしのぎを削っています。日本のメディアもワイドショー的報道ではなくリアルな情報を伝えてほしい。またアフリカでは米国、EU、トルコ、ロシア、中国などが勢力争いをしていますが、今最も影響力があるのは支援の代わりに資源の権利を要求するロシアの民間軍事会社ワグネルです。資源の争奪が行われています。アフリカの6割以上の国は植民地解放闘争で支援を受けたロシアを支持しています。

質疑応答では、「アフリカで日本はどう思われていますか？」など高校生たちからも熱心な質問が出ました。



④ **戦火の中の女性と子どもたち**
～ウクライナ、イラクの現場から～

講 師 玉本英子さん（ジャーナリスト・アジアプレス所属）
日 時 2023年11月25日（土）
会 場 神戸市教育会館（神戸市中央区）
参加者 65人

玉本さんは紛争の中の女性や子どもに視点を当て取材を続けています。この4月、5月にもウクライナとイラクを訪れました。



ウクライナでは、2022年2月のロシアの軍事侵攻から人々の平和な日常が一変し、子どもたちの心にも深い傷を与えています。ミサイル攻撃で6人の子どもを含む23人が亡くなった中部ウマニの現場では手を合わせる小学生の姿があ

りました。砲撃が続く最前線の町ザボリージャ州オレヒウでは子どもは全員避難し、行き場の無い高齢者たちが学校の地下部屋で身を寄せていました。南部オデーサでは攻撃におびえたり、親を亡くしたりしながらも大好きなK-POPやアニメのコスプレを心の支えにしている少女たちもいます。

一方イラクでは、戦火に翻弄された市民の姿がありました。2003年にイラク戦争が始まり、2004年アメリカ軍が大規模な武装勢力掃討作戦を行った町ファルージャでは多くの市民が犠牲になりました。その後の宗派抗争、過激派組織「イスラム国（IS）」による支配とその掃討作戦が続き、人々にとって長く過酷な20年でした。

玉本さんの取材した映像と写真、そして参加者の小学生にもわかりやすい語り口から、ニュースでは伝えられていない現場の状況や戦争の悲惨さを知り、「戦争は起きてしまうと止めることが難しい。犠牲になるのは力なき市民」という玉本さんの強い思いが伝わった2時間でした。

ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ガザ人道危機	ガザ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

ユニセフ兵庫ニュース *Wish* vol.72

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2024年1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 2F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

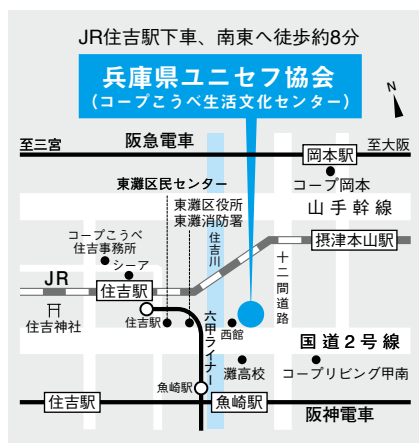
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://unicef-hyogo.jp/>

兵庫 ユニセフ

検索



Join Us 主催イベント

ユニセフのつどい vol.22



時間 3月2日(土) 12:00 ~ 15:30

会場 コープこうべ生活文化センター

内容 出展「WORLD MARKET」
講演「For Every Child
~世界の子どもの現在の現在~」
ロビンソン・麻己さん
(UNICEF 東京事務所副代表)
ワークショップ「わくわくワールドカフェ」
ネパールダンス

ユニセフのつどいは、兵庫県ユニセフ協会の年に一度のお祭りです。子どもたちの明るい未来をつくるために、誰にでもできることがあります。知って、楽しんで、笑って、つながろう。

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

2024 国際理解講座① 「ミャンマーの子どもたちの願い~彼らの置かれた現状~」

日時 4月28日(日) 13:30 ~ 15:00

会場 東りいたみホール(中ホール)

主催 兵庫県ユニセフ協会
伊丹市ユネスコ協会

共催 伊丹市

講師 ナン ミャ ケー カインさん
京都精華大学特任准教授



1989 年に来日し、立命館大学で経営学を学び、同大学院で国際関係学博士号を取得。卒業後は複数の大学で非常勤講師を務める。通訳・翻訳業のほか、母国ミャンマーでは日本語学校や出版社の運営にも携わる。



安田直史さん
近畿大学社会連携推進センター教授



医師。大阪大学医学部、ジョンス・ホプキンス公衆衛生大学院卒。国立国際医療センター、JICA を経て 2005 年からユニセフ職員としてミャンマー、ベトナム、タンザニアの保健、衛生、HIV、母子保健対策に関わる。

参加申込みはホームページ上の
申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

Booth 出展参加

1月21日(日) 近畿地区子ども会大会(神戸国際展示場)

事務局からのお知らせ

兵庫県ユニセフ協会
「第28回理事会、第15回評議員会」を開催しました

日時 2023年12月6日(水)
会場 コープこうべ住吉事務所

今期中に交代された方々の選任をしていただき、その後、2023年度の活動、決算見込み、2024年度の事業計画、予算案などを報告しました。ご出席のみなさまからは、次年度の活動に向けたご意見ご提案をいただき貴重な時間となりました。

ホームページの URL が
変わりました

<https://unicef-hyogo.jp/>



学生グループ「ユニーズ」が
フレンドネーションに挑戦!!

アフリカの飢餓に苦しむ子どもたちのために「アフリカの栄養危機」プロジェクトを立ち上げました。応援をよろしくお願いいたします。